

新風

発行年月日
2021年5月吉日

発行
西濱和博後援会

質疑の様子をYouTubeで
ご覧いただけます



子供を事故から守れ！ 市がキッズゾーン設置の方針表明！

市議会令和元年12月定例会に西濱議員が登壇し、交通安全対策をテーマとして一般質問を行いました。

●通園の園児、541人がケガ(直近5年の交通事故)

令和元年5月、滋賀県大津市で散歩中だった保育園児らの列に車が突っ込むという痛ましい事故が発生しました。

公益財団法人交通事故総合分析センターの集計によると、保育園や幼稚園の園児が通園のため歩行していた際、自動車などによる交通事故に巻き込まれ、2018年までの5年間に死者4人を含む、541人がケガをしていたことが明らかとなりました。園内にいる際、事故に遭った園児も13人。散歩などが含まれるとみられます。

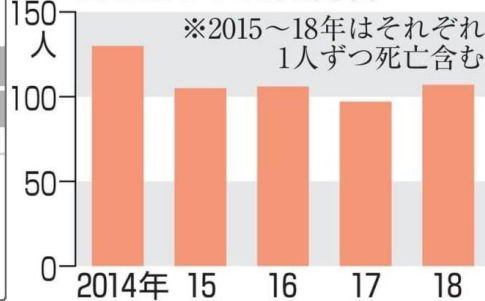
大津市の事故現場



事故の状況



通園のため歩行中、車の事故に巻き込まれた死傷者



我が国における歩行中、自転車乗車中の死者の割合は、主な欧米諸国と比較して、約2倍から3倍となっているなど、歩行者や自転車が多く通行する生活道路における安全対策をより一層推進する必要があります。子供を事故から守り、高齢者や障害者が安全にかつ安心して外出できる交通社会の形成を図る観点から、安全・安心な歩行者空間が確保された人優先の道路環境整備の強化を図っていくことが求められます。

●子供が集団で移動する経路の安全確保は、一刻の猶予も許されない！

キッズゾーンや防護柵の設置等(裏面)、安全・安心な歩行空間を整備するための対策を早急に具体化していく必要があります！

令和元年7月
大津市において新設された
キッズゾーン



問 令和元年六月十八日、「未就学児等及び高齢運転者の交通安全緊急対策」が取りま

答 健康福祉部長 本市においても、キッズゾーンの設

問 本市の交通安全対策の重点区域として、

答 本市の交通安全対策の重点区域として、

問 本市の交通安全対策の重点区域として、

答 本市の交通安全対策の重点区域として、

◆未就学児の集団移動経路等緊急安全点検及び小中学校の通学路安全点検の実施状況並びにキッズゾーン設定の推進に向け

た取り組みについて

(注釈)キッズゾーンとは、保育園等が行う散歩などの園外活動時の安全確保を目的として設定された安全対策の重点区域のこと。ゾーンの設定後は、危険箇所への安全対策、自動車の運転手等に対する注意喚起を行う等の対策を講じる。

討議資料

交通安全対策の実施例のご紹介！

◆井上第一踏切近くの交差点の対策(太田郷校区)



※イラストはイメージです。

(1) 事故多発交差点

H29年度に6件、H30年度に3件、R元年度11月末時点で3件の合計12件の交通事故が発生しています(自動車同士の事故が10件、自転車と自動車の事故が1件、自損事故が1件)。

(2) 西濱議員からの提案

国土交通省が定めた「防護柵の設置基準・同解説」の最新版には、これまでになかった「生活道路用防護柵」という新たな対策手法が追加されています。特に、児童生徒の通学路や園児の通園路などは、歩行者等の安全を確保すべき区間(適用範囲)として記されています。この新たに設けられた手法は、本市においてもこれまで対策を講じ切れていない箇所においては、有力なフォローになると考えられます。そこで、事故が多発する井上第一踏切近くの交差点における具体の対策として、歩道への車両の進入を防ぐ効果を持つ、車止め(ボラード)の設置を提案します。

(3) 八代市における対応

この交差点では、いまだに事故が毎年発生していることから、大津市のような歩道内の歩行者が、車同士の事故などに巻き添えとならないように、物理的に車両の進入を制限することが必要であると判断し、今後、新たに車両の衝突時の衝撃を低減させる強度を持った車止め、いわゆるボラードを設置します。➡R3年2月、上記の写真のとおり対策工事完了。

(4) 対策の効果

対策工事の完了直後、この交差点内において立て続けに2件の車両事故が発生しました。その際、車両の歩道への突入に対し、新たに設置した車止め(ボラード)が侵入阻止効果を発揮しました。

長年、建設行政に携わり、自らも一級土木施工管理技士の資格を持つ西濱議員の強みを生かした実践例ですね。



◆カーブミラー及び道路区画線の設置(八千把校区・古閑浜第二)

地域が抱える複数箇所の課題に一括して応えるために、対策の対象を点ではなく区間(路線)として捉えることにより、国の補助事業を活用しわずか一年で整備を終えました。



奪われてしまったかけがえのないという命は、もう二度と戻ってはきません。私たちはそれぞれの立場で、これから何をしていかなければならないのか、真剣に考え、できることから行動に移していくことが重要です。また、交通事故がない社会は、交通弱者が社会的に自立できる社会につながるという人優先の思想を、私たち一人一人が改めて胸に刻み、次の世代へ伝えていくことが大切であると考えます。